

URL レポートによる Crystal レポートの表示



目次

1	ドキュメント履歴.....	4
2	はじめに.....	5
2.1	このドキュメントについて.....	5
	このドキュメントの対象者.....	5
	Crystal Reports URL レポートについて.....	5
2.2	リンクの移行.....	6
	デフォルト URL パスの変更.....	6
	使用停止されたコマンド.....	6
3	URL 構文.....	8
3.1	基本的な URL 構文.....	8
3.2	URL 構文に関する考慮事項.....	8
4	コマンドリファレンス.....	11
4.1	認証コマンド.....	12
	apstoken.....	12
	apsuser、apspassword、apsauthtype.....	13
4.2	ドキュメント識別子コマンド.....	13
	id.....	13
4.3	入力コマンド.....	14
	gf.....	14
	promptex (ユースケース 1).....	14
	promptex (ユースケース 2).....	15
	promptex (ユースケース 3).....	17
	promptex#.....	18
	promptOnRefresh.....	18
	sf.....	19
	sPartContext.....	19
	sReportMode.....	20
	sReportPart.....	20
4.4	出力コマンド.....	21
	cmd および EXPORT_FMT.....	21
	EXPORT_OPT.....	22
	init.....	22

sZoom.	23
-------------	----

1 ドキュメント履歴

バージョン	日付	説明
SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.2	2015 年 11 月	ブランド変更によりガイドを更新しました。

2 はじめに

2.1 このドキュメントについて

このドキュメントは、OpenDocument 構文を使用するパラメータ付き URL の作成に関する情報を提供します。OpenDocument URL は、SAP BusinessObjects Business Intelligence platform システムのビジネスインテリジェント (BI)ドキュメントにリンクします。OpenDocument URL パラメータごとに、構文と使用例を含むパラメータリファレンスが用意されています。

BI platform のインストール後に OpenDocument Web アプリケーションをデプロイする方法については、SAP BusinessObjects Business Intelligence platform Web アプリケーションデプロイメントガイドを参照してください。

2.1.1 このドキュメントの対象者

このドキュメントは、URL レポート構文を使用して Crystal レポートの URL を作成するユーザを対象としています。次の作業を行うユーザは、このガイドを参照することをお勧めします。

- 電子メールなどの直接的方法によって Crystal レポートへのハイパーリンクをエンドユーザに提供する。
- Crystal レポートへのハイパーリンクを別の Crystal レポートに埋め込む。
- カスタムアプリケーションでプログラムによって Crystal レポートへのハイパーリンクを生成する。

BI platform インストール内のレポートの管理と構成に関する知識のほか、Crystal Reports デザインの概念に関する知識があると、理解に役立ちます。

2.1.2 Crystal Reports URL レポートについて

Crystal Reports URL レポート (`viewrpt.cwr`) は、BI platform インストール内にデプロイされる多くの Web アプリケーションの 1 つです。Crystal レポートの着信 URL 要求を Central Management Server (CMS) で処理し、正しいレポートをエンドユーザの適切なビューアに提供します。これにより、レポートへの直接リンクをユーザに送信できるため、ユーザは BI 起動パッドなどでフォルダ階層内を移動する必要がありません。URL レポート構文とそのコマンドを使用して、これらのレポートにリンクする URL を作成できます。たとえば、次の URL を考えてみます。

```
http://<servername>:<port>/BOE/CrystalReports/viewrpt.cwr?id=1783
```

この URL は 1783 という一意の識別子を持つ CMS 内のレポートにアクセスし、そのレポートをエンドユーザのデフォルトの SAP Crystal Reports ビューアに表示します。この例の `id` は、多くの URL コマンドの 1 つです。これらのコマンドは、CMS 内の特定のレポートにアクセスする方法を指定したり、エンドユーザにレポートを表示する方法を決定します。レポートデータベース認証、パラメータプロンプト、および選択式の値を自動的に割り当てることもできます。

Crystal Reports Designer には、CMS 内に保存されている他のレポートやドキュメントへのハイパーリンクを作成して埋め込む際に役立つ GUI ベースのエディタが用意されています。この機能については、*Crystal Reports ユーザガイド*を参照してください。

2.2 リンクの移行

2.2.1 デフォルト URL パスの変更

SAP BusinessObjects Business Intelligence platform 4.0 では、Crystal Reports URL レポート Web アプリケーションバンドルのデフォルト URL が変更されています。新しい絶対 URL レポートリンクでは、新しいデフォルト URL を使用する必要があります。

```
http://<servername>:<port>/BOE/CrystalReports/viewrpt.cwr
```

既存のリンクを含むレポートを XI 3.x リリースプラットフォームから移行する場合は、Web サーバで次のリダイレクトを設定して、この問題を解決します。

- リダイレクト元: ../CrystalReports/viewrpt.cwr
- リダイレクト先: ../BOE/CrystalReports/viewrpt.cwr

i 注記

設定したリダイレクトによってすべての URL 要求パラメータが正しく転送されることを確認します。リダイレクトを実装する方法の詳細については、Web サーバのマニュアルを参照してください。

i 注記

SAP BusinessObjects Business Intelligence platform 4.0 では、URL レポート Web アプリケーションの Java デプロイメントのみがサポートされています。

2.2.2 使用停止されたコマンド

このセクションでは、SAP BusinessObjects Business Intelligence platform 4.0 で使用停止および廃止された Crystal Reports URL レポート作成コマンドを一覧します。

表 1: 使用停止のコマンド

パラメータ	説明	置換
connect	Page Server に再接続します。	これに代わるものはありません。

パラメータ	説明	置換
init=activex	Crystal Reports ActiveX ビューアを指定します。	代わりに、init=dhtml または init=part を使用してください。ActiveX ビューアは、このリリースで使用停止になりました。
init=java	Crystal Reports Java Applet ビューアを指定します。	代わりに、init=html または init=part を使用してください。Java Applet ビューアは、このリリースで使用停止になりました。
prompt#	各パラメータを値で指定します。Crystal Reports の以前のバージョン (Crystal Reports 7 など) の方法でパラメータ値を指定します。	代わりに、promptex または promptex# を使用します。
rptsrc	Central Management System (CMS) 内のマネージドレポートのレポートソースオブジェクトを参照するセッション変数を指定します。	代わりに id を使用して、表示するレポートを特定します。
user および password	レポートとそのサブレポートで使用されるデータベースのログオン認証情報を指定します。	これに代わるものではありません。
user# および password#	レポートとそのサブレポートで使用されるデータベースのログオン認証情報を指定します。	これに代わるものではありません。

表 2: 廃止されたコマンド

パラメータ	説明	置換
EXPORT_FMT=U2FXML:0	レポートがレガシー Crystal Reports XML 形式にエクスポートされるように指定します。	これに代わるものではありません。

3 URL 構文

3.1 基本的な URL 構文

以下の節では、URL レポートの使用方法と URL の作成方法について説明します。

URL レポートの URL の一般的な構造を次に示します。

```
http://<servername>:<port>/BOE/CrystalReports/viewrpt.cwr?  
<command1>&<command2>&...&<commandN>
```

i 注記

変数は山かっこで示しています。これらの変数を適切な値に置き換えてください。たとえば、viewrpt.cwr Web アプリケーションにアクセスするには、<servername> に viewrpt.cwr がホストされているサーバの名前を使用し、<port> に正しいポート番号を使用する必要があります。

デプロイメント

URL レポートアプリケーションは、Java アプリケーションサーバにデプロイされます。アプリケーションが設定される場所に応じて、サーバ名とポート番号は Web サーバに依存しますが、呼び出し規約はアプリケーションサーバに依存しません。

3.2 URL 構文に関する考慮事項

ドキュメントへのアクセス

表示するドキュメントを指定するには、OpenDocument URL に iDocID パラメータまたは sDocName パラメータを含める必要があります。Central Management Server (CMS) に同じ名前のドキュメントが複数存在する場合や、ドキュメントが移動されたり名前が変更される場合があるため、各ドキュメントが一意になるように iDocID を使用することをお勧めします。

パラメータの結合

パラメータはアンパサンド(&)で結合します。アンパサンドの前後にスペースを入れないでください。たとえば、sType=wid&sDocName=Sales2003 です。

パラメータとパラメータの間には必ずアンパサンドが必要です。

パラメータ値内のスペースと特殊文字

ブラウザによってはスペースを解釈できない場合があるため、URL エンコードが必要な特殊文字やスペースをリンクのパラメータに入れることはできません。特殊文字が誤って解釈されないようにするには、特殊文字をエスケープシーケンスに置換するために、ソースデータベースで URL エンコード文字列を定義します。これにより、データベースは特殊文字を無視し、パラメータ値を正しく解釈できます。RDBMS によっては、ある特殊文字を別の特殊文字に置換する機能があります。

プラス記号(+)のエスケープシーケンスを作成することで、プラス記号をスペースとして解釈するようにデータベースに指示できます。この場合、「Sales Report for 2003」というドキュメントタイトルは、DocName パラメータで `&sDocName=Sales+Report+for+2003&` のように指定します。

この構文により、データベースがタイトル内のスペースを誤って解釈しなくなります。

また、シリアル化セッション (serSes パラメータを使用) およびログオントークン (token パラメータを使用) の値は、OpenDocument URL 文字列に渡す前に、アプリケーションで URL エンコードする必要があります。

パラメータ値の末尾のスペース

パラメータ値やプロンプト名の末尾のスペースは削除します。このようなスペースをプラス記号(+)で置き換えないでください。そうしないと、プラス記号(+)をプロンプト名の一部として解釈するか、スペースとして解釈するかをビューアが判断できない場合があります。たとえば、次のようなプロンプト名を考えます。

```
Select a City: _
```

この `_` はスペースを表します。この場合、リンクには、次のようなテキストを入力します。

```
lsSSelect+a+City:=Paris
```

プロンプト名内のスペースはプラス記号に置き換え、末尾のスペースは削除しました。

大文字と小文字

OpenDocument のすべてのパラメータとパラメータ値は、大文字と小文字が区別されます。

URL の長さの制限

OpenDocument は、要求されたドキュメントにリダイレクトする際に URL に文字を追加することがあります。ただし、エンコードされた URL が、サポートされているブラウザの最大文字数の制限を超えることはできません。たとえば、Internet Explorer の一部のバージョンでは、URL の長さが 2083 文字に制限されています。したがって、ブラウザの文字制限を確認し、URL が最大文字数の範囲内に収まるようにしてください。

サブレポートへのリンク内のパラメータ値

ターゲット Crystal レポートのサブレポートにパラメータ値を渡すことはできません。

新しいウィンドウを開く

OpenDocument HTML リンクで新しいブラウザウィンドウを開くには、HTML アンカーの `target` 属性などを使用します。以下はその例です。

```
<a href="http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/<platformSpecific>?
      iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI
      &sIDType=CUID"
  target="_blank">hyperlink text</a>
```

4 コマンドリファレンス

このセクションは、使用できる URL レポートコマンドの詳細、その固有の使用方法、および使用例を提供します。

表 9: 認証コマンド

コマンド	説明
apstoken [12 ページ]	現在の Enterprise セッションの有効なログオントークンを指定します。
apsuser、apspassword、apsauthtype [13 ページ]	CMS へのログオンに使用する認証情報を指定します。

表 10: ドキュメント識別子コマンド

コマンド	説明
id [13 ページ]	CMS 内の表示可能なドキュメントの一意の識別子を指定します。

表 11: 入力コマンド

コマンド	説明
gf [14 ページ]	レポートのグループ選択式を指定します。
promptex(ユースケース 1) [14 ページ]	レポートおよびサブレポート内のパラメータフィールドの値を指定します。 promptex(ユースケース 2) [15 ページ] 、 promptex(ユースケース 3) [17 ページ] 、および promptex# [18 ページ] も参照してください。
promptOnRefresh [18 ページ]	レポートを最新表示したときにパラメータフィールド値の入力を求めるかどうかを指定します。
sf [19 ページ]	より詳細にレコードをフィルタ処理するための選択式を指定します。
sPartContext [19 ページ]	レポートパーツのデータコンテキストを指定します。 <code>sReportPart</code> と共に使用します。
sReportMode [20 ページ]	レポート表示に使用するモードを指定します。
sReportPart [20 ページ]	表示するターゲットレポートのパーツを指定します。

表 12: 出力コマンド

コマンド	説明
cmd および EXPORT_FMT [21 ページ]	レポートのエクスポートを指示し、エクスポート形式を指定します。 <code>EXPORT_OPT</code> と組み合わせて使用します。

コマンド	説明
EXPORT_OPT [22 ページ]	エクスポートするレポートのページ範囲を指定します。cmd=EXPORT および EXPORT_FMT と組み合わせて使用します。
init [22 ページ]	レポート表示に使用するビューアを指定します。
sZoom [23 ページ]	レポート表示に使用する拡大率を指定します。

4.1 認証コマンド

4.1.1 apstoken

表 13:

構文	説明	値
apstoken	Enterprise セッションの有効なログオントークンを指定します。	現在の Enterprise セッションのログオントークン。

現在のユーザのログオントークンが含まれます。ユーザが認証情報を再度要求されことなくレポートにアクセスできるように、この情報を URL に含めることができます。新しいログオントークンを作成すると、1つの追加ライセンスが使用されます。

例

この例では、BI platform Java SDK を使用して、URL にログオントークンを渡します。

ILogonTokenMgr.createLogonToken メソッドの詳細については、*SAP BusinessObjects Business Intelligence platform Java API* リファレンスを参照してください。.NET や Web サービスなどの他の BI platform SDK を使用しても、同様の方法でログオントークンを作成できます。

```
String viewReportURLToken() throws SDKException, UnsupportedEncodingException
{
    IEnterpriseSession sess = CrystalEnterprise.getSessionMgr().logon
("username", "password", "<cms>:<port>", "secEnterprise");
    String token = sess.getLogonTokenMgr().createLogonToken("", 120, 100);
    String tokenEncode = URLEncoder.encode(token, "UTF-8");
    return ("http://<server>:<port>/BOE/CrystalReports/viewrpt.cwr?
id=1152&apstoken=" + tokenEncode);
}
```

4.1.2 apuser、apspassword、apsauthtype

表 14:

構文	説明	値
apuser	CMS へのログオンに使用する認証情報を指定します。	CMS へのログオンに使用する有効なユーザー名、パスワード、および認証の種類 (secEnterprise、secLDAP、secWinAD)。
apspassword		
apsauthtype		

ユーザーが電子メールでレポートを受け取り、そのレポートを表示するために CMS にログオンする必要がある場合など、状況によっては、これらのコマンドを使用する必要があります。ただし、ほとんどの場合は、apstoken コマンドを使用して、有効な Enterprise セッションを URL に渡すことをお勧めします。

例

```
http://<servername>:<port>/BOE/CrystalReports/viewrpt.cwr?  
id=1152&apuser=JLee&apspassword=secret&apsauthtype=secEnterprise
```

4.2 ドキュメント識別子コマンド

4.2.1 id

表 15:

構文	説明	値
id	CMS 内の表示可能なドキュメントの一意の識別子を指定します。	CMS 内のドキュメントに関連付けられた数値識別子。

ドキュメントの識別子の値は、セントラル管理コンソール(CMC)または BI 起動パッドアプリケーション内で確認できます。各ドキュメントのプロパティページにドキュメント ID があります。BI platform SDK を使用して、プログラムから識別子を取得することもできます。たとえば、Java SDK の `com.crystaldecisions.sdk.occa.infostore.IInfoObject` インタフェースには、URL を渡すことができる `getID` メソッドが含まれています。

例

```
http://<servername>:<port>/BOE/CrystalReports/viewrpt.cwr?id=1152
```

4.3 入力コマンド

4.3.1 gf

表 16:

構文	説明	値
gf	レポートのグループ選択式を指定します。	有効な Crystal Reports グループ選択式。

i 注記

- SAP Crystal Reports for Enterprise で作成された Crystal レポートでは、gf および sf コマンドがサポートされません。これらのコマンドは、SAP Crystal Reports 2011 で作成されたレポートでのみサポートされます。
- 同じ sf コマンドと gf コマンドが適用され、ログイン情報が必要でないレポート間では、ページが共有されます。
- DHTML ビューアでは gf コマンドを使用できません。URL で init コマンドを指定し、ActiveX または Java ビューアを選択する必要があります。

例

次の例は、各地域内のすべての顧客売上の合計が 10,000 より大きいすべてのグループを選択するグループ選択式を渡します。

```
http://<servername>:<port>/BOE/CrystalReports/viewrpt.cwr?  
id=1152&init=java&gf=Sum({customer.Sales},{customer.Region})>10000
```

4.3.2 promptex (ユースケース 1)

表 17:

構文	説明	値
promptex-<promptname>	パラメータの値を名前で指定します。	<promptname> と <subrpt> は、パラメータフィールドプロンプトとサブレポートの名前を表す空でない文字列です。これらの名前はレポート内で定義されます。<value> は単一文字列です。
promptex-<promptname>@<subrpt>		

i 注記

URL で渡されるパラメータは、レポートインスタンスに保存データが含まれる場合でも、常にレポートに適用されます。

例

次の例は、「sample」という名前のパラメータの値として「hello」を渡します。

```
http://<servername>:<port>/BOE/CrystalReports/viewrpt.cwr?id=1152&promptex-sample="hello"
```

次のサブレポートの例は、「mysubrpt」という名前のサブレポートの「sample」という名前のパラメータの値として「hello」を渡します。

```
http://<servername>:<port>/BOE/CrystalReports/viewrpt.cwr?id=1152&promptex-sample@mysubrpt="hello"
```

i 注記

- 既存のレポートをサブレポートとして挿入した場合、サブレポート名にはファイルの拡張子(.rpt)が付きます。ただし、サブレポートがメインレポート内で作成された(レポートエキスパートを使用して新しいレポートを作成し、[サブレポートの挿入]を使用)場合は、サブレポート名にファイル拡張子がない場合があります。その場合は、[サブレポートの挿入]ダイアログボックスの[レポート名]テキストボックスで拡張子を追加しない限り、「user0@subreportname」という形式のサブレポート名が表示されます。
- 円マーク(\)はエスケープ文字なので、その直後の文字として解釈されます。引用符と円マークは URL の予約文字なので、「エスケープする」必要があります。「@」、「.」、または「\」をサブレポート名、サーバ名、データベース名、またはパラメータ名で使用する場合は、エスケープする必要があります。

4.3.3 promptex (ユースケース 2)

表 18:

構文	説明	値
<pre>promptex- sample="<value A>","<value B>","<value C>"</pre> <pre>promptex- sample=["<value A>"-"<value B>"]</pre>	1つのパラメータに複数の値を指定します。	<promptname>と<subrpt>は、パラメータフィールドプロンプトとサブレポートの名前を表す空でない文字列です。これらの名前はレポート内で定義されます。<value A>、<value B>、および<value C>は文字列です。間隔の範囲については、以下の表を参照してください。

i 注記

URL で渡されるパラメータは、レポートインスタンスに保存データが含まれる場合でも、常にレポートに適用されます。

例

次の例は、fruits という名前のパラメータの値として Apples、Oranges、および Grapes を指定します。

```
http://<servername>:<port>/BOE/CrystalReports/viewrpt.cwr?id=1152&promptex-fruits="Apples","Oranges","Grapes"
```

例

角かっこは、指定された数値までが範囲に含まれることを示します。丸かっこは、指定された数値自体は範囲に含まれないことを示します。例：

```
http://<servername>:<port>/BOE/CrystalReports/viewrpt.cwr?id=1152&promptex-sample=("5"-11")
```

両方が丸かっこなので、5 と 11 の間のすべての値を指定し、5 と 11 は含みません。

```
http://<servername>:<port>/BOE/CrystalReports/viewrpt.cwr?id=1152&promptex-sample=["5"-11")
```

角かっこと丸かっこの組み合わせなので、5 と 11 の間のすべての値を指定し、5 を含み、11 は含みません。

```
http://<servername>:<port>/BOE/CrystalReports/viewrpt.cwr?id=1152&promptex-sample=("-11")
```

この丸かっことマイナス記号は、11 より小さいすべての値を指定し、11 は含みません。

次の表に、使用できる有限の範囲と有限でない範囲を示します。

表 19:

有限の範囲	有限でない範囲
["<value>"-"<value>"]	("<value>"-)
("<value>"-"<value>")	["<value>"-)
["<value>"-"<value>")	(-"<value>")
("<value>"-"<value>")	(-"<value>"]

4.3.4 promptex (ユースケース 3)

表 20:

構文	説明	値
<pre>promptex- <promptname>="Date (YYY Y, MM, DD) "</pre>	単一値または日付範囲の方法を使用して、日付または日時パラメータ値を指定します。	渡される日付または日時パラメータ。特定の日付または日付範囲を渡すことができます。単一値の日付または日時パラメータの場合は、二重引用符が必要です。
<pre>promptex- <promptname>= ["Date (YY YY, MM, DD) "- "Date (YYYY, MM, DD) "]</pre>		

i 注記

URL で渡されるパラメータは、レポートインスタンスに保存データが含まれる場合でも、常にレポートに適用されます。

例

「birthdate」パラメータとして、2002 年 2 月 2 日の日付値を渡すには、次の URL コマンドを使用します。

```
http://<servername>:<port>/BOE/CrystalReports/viewrpt.cwr?id=1152&promptex-  
birthdate="Date (2002,02,02) "
```

例

次の例では、DateRangeParameter がパラメータ名です。値を囲む角かっこは、指定された日付が範囲に含まれることを示します。

```
http://<servername>:<port>/BOE/CrystalReports/viewrpt.cwr?id=1152&promptex-  
DateRangeParameter= [ "date (1996,02,18) "- "Date (1996,09,10) " ]
```

日付値を囲むかっこの種類により、それらの値が日付範囲に含まれるかどうかを指定できます。

- 値が角かっこ [] で囲まれる場合は、指定された日付が範囲に含まれることを示します。
- 値が丸かっこ () で囲まれる場合は、指定された日付が範囲に含まれないことを示します。

4.3.5 promptex#

表 21:

構文	説明	値
promptex#	promptex# コマンドは、以前の prompt# コマンドの拡張バージョンです。新しい表記法では、パラメータ値を引用符で括弧することで、値が文字列であることを明示します。すべてのパラメータ値は文字列としてレポートに渡され、数値として渡されるべき値はレポートによって文字列から数値に変換されます。	<promptname> と <subrpt> は、パラメータフィールドプロンプトとサブレポートの名前を表す空でない文字列です。これらの名前は、レポート内で定義されます。<value> は単一または複数の値を持つ文字列です。

レポートに複数のパラメータフィールドが含まれる場合は、prompt# のインデックス値を順に増やして複数の値を渡すことができます。たとえば、promptex0="CA"&promptex1="1000"。プロンプトは、任意の順序で URL に指定できます。たとえば、promptex1 を promptex0 の前に指定してもかまいません。ただし、インデックス番号は、プロンプトがレポート内で出現する順序と一致している必要があります。

i 注記

- URL で渡されるパラメータは、レポートインスタンスに保存データが含まれる場合でも、常にレポートに適用されます。
- promptex# パラメータが適用されるレポートのページは共有されません。ページはユーザごとにキャッシュされます。つまり、キャッシュに保存されたページは、そのページを最後に表示したユーザのために予約されます。
- promptex# コマンドは、メインレポートのパラメータに値を渡す場合にのみ使用できます。サブレポートのパラメータに値を渡す場合は、prompt コマンドまたは promptex コマンドを使用する必要があります。

例

次の例は、レポートの最初のパラメータの値として「CA」を渡します。

```
http://<servername>:<port>/BOE/CrystalReports/viewrpt.cwr?id=1152&promptex0="CA"
```

4.3.6 promptOnRefresh

表 22:

構文	説明	値
promptOnRefresh	レポートを最新表示したときにパラメータフィールド値の入力を求めるかどうかを指定します。	値は 0 または 1 を指定する必要があります。0 は False、1 は True です。

例

```
http://<servername>:<port>/BOE/CrystalReports/viewrpt.cwr?id=1152&promptOnRefresh=1
```

4.3.7 sf

表 23:

構文	説明	値
sf	より詳細にレコードをフィルタ処理するための選択式を指定します。	有効な Crystal Reports 選択式。

i 注記

SAP Crystal Reports for Enterprise で作成された Crystal レポートでは、gf および sf コマンドがサポートされません。これらのコマンドは、SAP Crystal Reports 2011 で作成されたレポートでのみサポートされます。

sf コマンドを使用して URL から渡された選択式は、すでにレポートに設定されている選択式に追加されます。つまり、まずレポートと共に保存されている既存の選択式に基づいてレポートが生成され、そのレコードセットに sf コマンドで指定された選択式が適用されます。

たとえば、カリフォルニア州にある映画スタジオのレコードを選択する選択式がレポートにすでに含まれているとします。次に、sf コマンドを使用して、「Universal」などの特定のスタジオのレコードを選択する式を追加します。カリフォルニア州に「Universal」の値を持つスタジオがある場合は、そのスタジオについての情報が表示されます。ただし、カリフォルニア州に基づいてすでに選択されているレコードのサブセットに存在しないスタジオの値を sf コマンドで指定した場合、要求されたレポートにデータは含まれません。

i 注記

新しい選択式は、元のレポートファイルには保存されません。これは、現在の URL 要求のみで有効です。

例

```
http://<servername>:<port>/BOE/CrystalReports/viewrpt.cwr?  
id=1152&sf={studio.Studio}&=&'Universal'
```

4.3.8 sPartContext

表 24:

構文	説明	値
sPartContext	レポートパーツのデータコンテキストを指定します。sReportPart と共に使用します。	レポートパーツのデータコンテキストの名前。

i 注記

sReportPart および sPartContext コマンドは、DHML パーツビューア (init=part) でのみサポートされています。

例

次の例は、レポートパーツのデータコンテキストを指定します。

```
http://<servername>:<port>/BOE/CrystalReports/viewrpt.cwr?  
id=1152&sPartContext=/USA/CA
```

4.3.9 sReportMode

表 25:

構文	説明	値
sReportMode	レポート表示に使用するモードを指定します。	<ul style="list-style-type: none">partprintlayoutweblayout

i 注記

- このパラメータを使用する際のデフォルト値は `printlayout` です。したがって、不正な値が与えられると、コマンドはデフォルトの表示モードを使用します。
- sReportMode は、`init=html` または `init=dhtml` の場合、または `web.xml` でデフォルトビューアが `dhtml` に選択されている場合にのみ適用可能です。
- `init=html` または `web.html` でデフォルトのビューアが `html` に設定されているときの `sReportMode=part` は、URL で `init=part` と指定することと同じです。

例

次の例では、レポートのパーツを表示できます。

```
http://<servername>:<port>/BOE/CrystalReports/viewrpt.cwr?  
id=1152&init=html&sReportMode=part
```

4.3.10 sReportPart

表 26:

構文	説明	値
sReportPart	表示するターゲットレポートのパーツを指定します。	レポートパーツの名前。

i 注記

sReportPart および sPartContext コマンドは、DHML パーツビューア (init=part) でのみサポートされています。

例

次の例は、表示するレポートパーツを指定します。

```
http://<servername>:<port>/BOE/CrystalReports/viewrpt.cwr?  
id=1152&sReportPart=graph3
```

4.4 出力コマンド

4.4.1 cmd および EXPORT_FMT

表 27:

構文	説明	値
cmd=EXPORT	レポートのエクスポートを指示し、エクスポート形式を指定します。EXPORT_OPT と組み合わせで使用します。	エクスポート形式の値については、下の表を参照してください。
EXPORT_FMT=<EXPORT_FMT representation>		

表 28:エクスポート形式

エクスポート形式	Export_FMT representation
PDF	U2FPDF:0
Crystal Reports (RPT)	U2FCR:0
Microsoft Excel (97-2003)	U2FXLS:3
Microsoft Excel (97-2003) 拡張	U2FXLS:4
リッチテキスト形式 (RTF)	U2FRTF:0
Microsoft Word - 編集可能 (RTF)	U2FRTF:1
Microsoft Word (97-2003)	U2FWORDW:0

例

次の例は、レポートをリッチテキスト形式 (RTF) にエクスポートします。

```
http://<servername>:<port>/BOE/CrystalReports/viewrpt.cwr?  
id=1152&cmd=EXPORT&EXPORT_FMT=U2FRTF:0
```

4.4.2 EXPORT_OPT

表 29:

構文	説明	値
EXPORT_OPT	エクスポートするレポートのページ範囲を指定します。cmd=EXPORT および EXPORT_FMT と組み合わせて使用します。	有効なページ範囲。整数を角かっこで囲んだ [firstPage-lastPage] 形式で表します。firstPage の値は、lastPage の値未満でなければなりません。

注記

値を指定しない場合は、デフォルトでレポート全体がエクスポートされます。これは、この値を「[-]」に設定することと同じです。

例

次の例は、レポートの最初の 4 ページをリッチテキスト形式 (RTF) にエクスポートします。

```
http://<servername>:<port>/BOE/CrystalReports/viewrpt.cwr?  
id=1152&cmd=EXPORT&EXPORT_FMT=U2FRTF:0&EXPORT_OPT=[1-4]
```

4.4.3 init

表 30:

構文	説明	値
init	レポート表示に使用するビューアを指定します。	<ul style="list-style-type: none">dhtml (DHTML ビューア)part (DHTML パーツビューア)

注記

- 値を指定しない場合は、デフォルトでレポートの表示に DHTML ビューアが使用されます。
- DHTML および DHTML パーツビューアは、Java と .NET Web フォームの両方のバージョンに対応しています。

例

次の例は、DHTML ビューアを使用してレポートを表示することを指定します。

```
http://<servername>:<port>/BOE/CrystalReports/viewrpt.cwr?id=1152&init=dhtml
```

4.4.4 sZoom

表 31:

構文	説明	値
sZoom	レポート表示に使用する拡大率を指定します。	拡大率を表す整数値。指定しない場合は、デフォルトの 100 になります。

例

```
http://<servername>:<port>/BOE/CrystalReports/viewrpt.cwr?id=1152&sZoom=50
```

重要免責事項および法的情報

コードサンプル

この文書に含まれるソフトウェアコード及び / 又はコードライン / 文字列 (「コード」) はすべてサンプルとしてのみ提供されるものであり、本稼働システム環境で使用することが目的ではありません。「コード」は、特定のコードの構文及び表現規則を分かりやすく説明及び視覚化することのみを目的としています。SAP は、この文書に記載される「コード」の正確性及び完全性の保証を行いません。更に、SAP は、「コード」の使用により発生したエラー又は損害が SAP の故意又は重大な過失が原因で発生させたものでない限り、そのエラー又は損害に対して一切責任を負いません。

アクセシビリティ

この SAP 文書に含まれる情報は、公開日現在のアクセシビリティ基準に関する SAP の最新の見解を表明するものであり、ソフトウェア製品のアクセシビリティ機能の確実な提供方法に関する拘束力のあるガイドラインとして意図されるものではありません。SAP は、この文書に関する一切の責任を明確に放棄するものです。ただし、この免責事項は、SAP の意図的な違法行為または重大な過失による場合は、適用されません。さらに、この文書により SAP の直接的または間接的な契約上の義務が発生することは一切ありません。

ジェンダーニュートラルな表現

SAP 文書では、可能な限りジェンダーニュートラルな表現を使用しています。文脈により、文書の読者は「あなた」と直接的な呼ばれ方をされたり、ジェンダーニュートラルな名詞 (例: 「販売員」又は「勤務日数」) で表現されます。ただし、男女両方を指すとき、三人称単数形の使用が避けられない又はジェンダーニュートラルな名詞が存在しない場合、SAP はその名詞又は代名詞の男性形を使用する権利を有します。これは、文書を分かりやすくするためです。

インターネットハイパーリンク

SAP 文書にはインターネットへのハイパーリンクが含まれる場合があります。これらのハイパーリンクは、関連情報を見いだすヒントを提供することが目的です。SAP は、この関連情報の可用性や正確性又はこの情報が特定の目的に役立つことの保証を行いません。SAP は、関連情報の使用により発生した損害が、SAP の重大な過失又は意図的な違法行為が原因で発生したものでない限り、その損害に対して一切責任を負いません。すべてのリンクは、透明性を目的に分類されています (<http://help.sap.com/disclaimer> を参照)。



www.sap.com/contactsap

© 2015 SAP SE or an SAP affiliate company. All rights reserved.

本書のいかなる部分も、SAP SE 又は SAP の関連会社の明示的な許可なくして、いかなる形式でも、いかなる目的にも複製又は伝送することはできません。本書に記載された情報は、予告なしに変更されることがあります。SAP SE 及びその頒布業者によって販売される一部のソフトウェア製品には、他のソフトウェアベンダーの専有ソフトウェアコンポーネントが含まれています。製品仕様は、国ごとに変わる場合があります。

これらの文書は、いかなる種類の表明又は保証もなしで、情報提供のみを目的として、SAP SE 又はその関連会社によって提供され、SAP 又はその関連会社は、これら文書に関する誤記脱落等の過失に対する責任を負うものではありません。SAP 又はその関連会社の製品及びサービスに対する唯一の保証は、当該製品及びサービスに伴う明示的保証がある場合に、これに規定されたものに限られます。本書のいかなる記述も、追加の保証となるものではありません。

本書に記載される SAP 及びその他の SAP の製品やサービス、並びにそれらの個々のロゴは、ドイツ及びその他の国における SAP SE (又は SAP の関連会社) の商標若しくは登録商標です。本書に記載されたその他すべての製品およびサービス名は、それぞれの企業の商標です。

商標に関する情報および表示の詳細については、<http://www.sap.com/corporate-en/legal/copyright/index.epx> をご覧ください。